

荒川たんぽの保全・創出検討会※1
(事務局:羽越河川国道事務所)

投げ込み先

新潟県政・新県政記者クラブ
新潟日報社(村上支局)
村上新聞社
いわふね新聞社
NHK新潟(村上報道室)
その他専門紙

取り扱い

配布後解禁

第19回荒川たんぽの保全・創出検討会 報告事項 トミヨ属淡水型(絶滅危惧種 I 類)を 関川村内で再確認

令和4年2月3日第19回荒川たんぽの保全・創出検討会において、羽越河川国道事務所で開催しているたんぽ※2のモニタリング調査にて、関川村内で「トミヨ属淡水型」を確認したことが報告されました。

トミヨ属淡水型は、新潟県の第2次レッドリストで絶滅危惧 I 類に指定され、関川村内では絶滅したと考えられている希少な淡水魚です。

報告されたモニタリング結果の概要、検討会でのコメントなどは、次ページのとおりです。

今後も荒川においてトミヨ属淡水型等の生息地である「たんぽ」の保全・創出に向けた検討を行います。

※1 荒川たんぽの保全・創出検討会の概要

荒川環境整備事業により整備している「たんぽ」の保全・創出に向けて、市民や諸団体、学識者、行政が相互に有する英知を提供しあい、その具体的方策について検討を行う

※2 「たんぽ」:湧水ワンドの地域呼称

お問い合わせ先

トミヨに関すること

荒川たんぽの保全・創出検討会委員:樋口 正人(NPO法人 五泉トゲソの会)

新潟県内水面水産試験場

電話:0258-22-2101 FAX:0258-22-3398

検討会、モニタリング調査及びその他全般に関すること

荒川たんぽの保全・創出検討会事務局:羽越河川国道事務所 調査課長 原 俊彦

新潟県村上市藤沢27-1

電話 0254-62-3211(代表) FAX 0254-62-1106

【検討会の報告概要(令和4年2月3日)】

- ・関川村内の荒川でトミヨ属淡水型を採捕
- ・採捕された個体は体側に連続した鱗板(りんばん)^{※1}がみられる。
- ・同時実施した環境DNA分析^{※2}では、関川村内の支川でもトミヨ属淡水型の生息していることを示すデータが得られた。

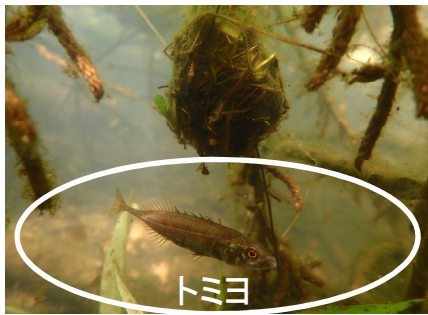
※希少種保護の観点から詳細な確認場所は伏せています。

【検討会コメント】

トミヨ属淡水型は県内では村上市、胎内市、新発田市、五泉市のごくわずかな地域にのみで確認され、近年、関川村内での確認は報告されていません。

また、体側の鱗板が連続している個体は、村上市にだけ生息していると考えられていました。

これらの結果は、関川村内でのトミヨ属淡水型の生息を再確認するものとして、保全学的に価値の高い結果であると評価しました。



※1 鱗板

鱗板は、体側側線付近の鱗が硬く隆起した部分を示す。トゲウオ目の特徴である。

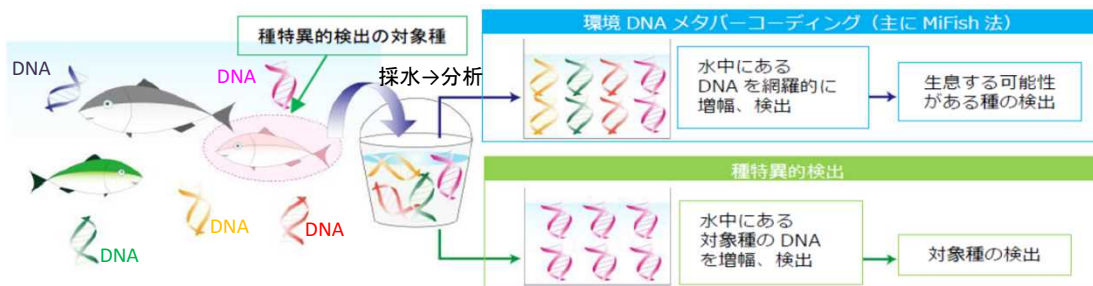


出典: 保育社(1989)原色日本淡水魚類図鑑

※2 環境DNA分析

環境DNA分析は、河川水に含まれる魚類の体液や排泄物由来のDNAを複製して増やし、検出機器で魚類の種類やその量がわかるため、水を汲むだけでどんな魚が生息しているか確認できる方法です。

なお、DNA分析には魚類の種類を網羅的に増幅・検出する手法(MiFish 法)と対象種のDNAのみを増幅・検出させる手法(種特異的検出法)の2つの手法があります。今回の調査では種特異的検出法で生息の有無、生息量を確認しました。



出典: 環境省自然環境局生物多様性センター(2020)環境DNA分析技術を用いた淡水魚類調査手の手引き